

「計画 (plan), 実行 (do), 評価 (check), 改善 (action)」の「p d c a サイクル」と整理した。

そして、p d c a サイクルに基づいた授業改善を図ることで、個別の指導計画や教育課程の見直しを行い、一貫性や系統性のある指導を効果的に行うことができるようにしたいと考えた。

【P D C A サイクル】

教育課程編成における、計画 (Plan), 実施 (Do), 評価 (Check), 改善 (Action) という取組

【p d c a サイクル】

1 単位時間の授業づくりにおける、計画 (plan), 実施 (do), 評価 (check), 改善 (action) という、本研究において整理した取組

第2章 実態調査

1 調査の目的と内容

特別支援学校における「一貫性・系統性のある指導」に関する現状と課題を把握するために、次の3点について調査した。

調査内容

- ① 教育課程の編成と実施の状況
- ② 個別の指導計画の作成と活用の状況
- ③ 知的障害のある児童生徒に対する授業づくりの状況 (生活単元学習, 国語, 算数・数学)

2 調査の方法等

(1) 調査対象

全ての県立特別支援学校16校 (幼稚部1校, 小学部15校, 中学部15校, 高等部14校)

(2) 調査方法

質問紙調査法 (選択式, 一部記述式)

(3) 調査日

平成24年9月1日

(4) 回答者

調査内容①	教育課程の編成に関して、中心的に推進している教師が、学校の現状を把握して回答
調査内容② 調査内容③	各学校の各学部において、中心的に推進している教師が、各学部の現状を把握して回答

3 調査の結果

(1) 教育課程を編成する上での課題

【問】 教育課程を編成する上で、どのような課題がありますか。(自由記述)

教育課程を編成する上での課題についての回答では、図3のように、「一貫性・系統性のある編成」を挙げる学校が多かった。具体的には、「小・中・高等部の系統性のある教育課程の編成の在り方について」や「小・中・高等部の一貫性・系統性」、「各指導の形態ごとの横断的なつながりと学年間の発展性や継続性」などが挙げられた。次に、「指導内容・指導方法等の在り方」に関することが多く挙げられた。回答の内容は、「各教科等の指導方法」、「指導内容の精選と指導時期の検討」、「準ずる教育課程の基本的な考え方」、「指導目標や指導内容の明確化」などであった。以下、「障害種等に応じた編成」、「授業時数の確保」、「学校行事との関連」、「キャリア教育の視点」、「評価・改善の機能化」などが続いた。

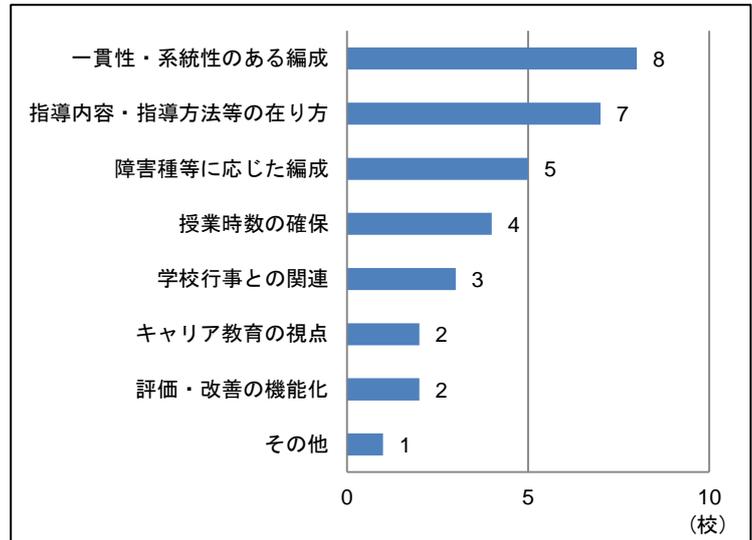


図3 教育課程編成上の課題（記述による複数回答）

(2) 教育課程を実施する上での課題

【問】 教育課程を実施する上で、どのような課題がありますか。(自由記述)

教育課程を実施する上での課題についての回答では、図4のように、「指導内容・指導方法等の在り方」が多く挙げられた。具体的には、「指導内容の精選」、「指導目標や指導内容の明確化」、「知肢併置校での合同学習の際の指導内容や指導方法の在り方」、「自立活動と各教科との関連」などの記述が多かった。

また、「教育課程の改善が不十分」、「評価の進め方と評価に基づいた編成の在り方」、「見直しのスパンと毎年の見直しの工夫」、「引継ぎが不十分」など、「評価・改善・引継ぎ」についても多く挙げられた。

なお、「その他」の回答内容は、「個別の指導計画・個別の教育支援計画との関連」に関すること、「行事の評価・改善」などであった。

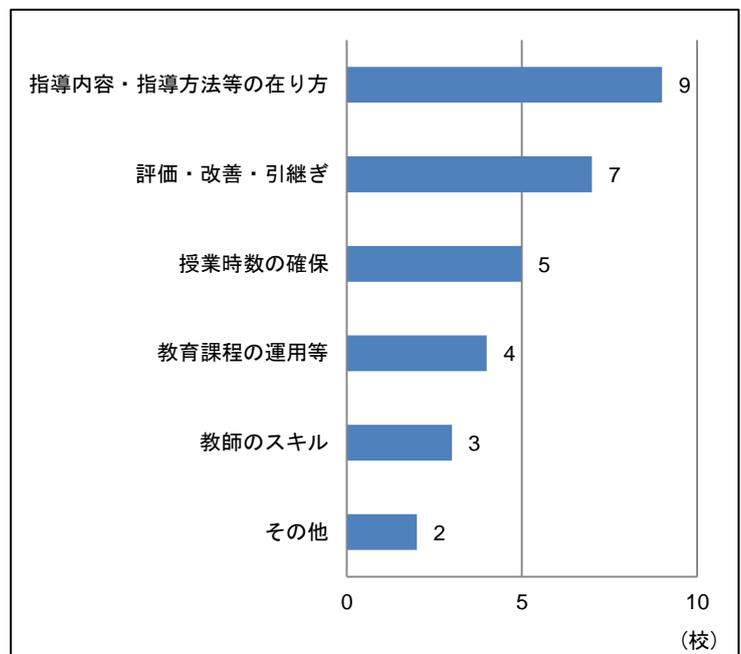


図4 教育課程実施上の課題（記述による複数回答）

(3) 日常的にお互いの授業を参観する機会

【問】 研究授業以外に、日常的にお互いの授業を参観する機会がありますか。また、参観するときどのようなことを工夫していますか。どのような成果がありますか。

研究授業以外に「授業参観をする機会がある」のは、図5のように、16校中7校であった。

授業参観の際の工夫としては、「授業参観週間」の設定等の時間の工夫が3校、「授業参観の視点を作成している」など効果的な授業参観の工夫が2校、その他に、「年度末に小学部6年・中学部3年（医療的ケア対象児を含む）の授業参観を実施している」や「学部間の交流研修を実施している」、「授業参観後にアンケートを実施し、結果を共有している」などの回答があった。

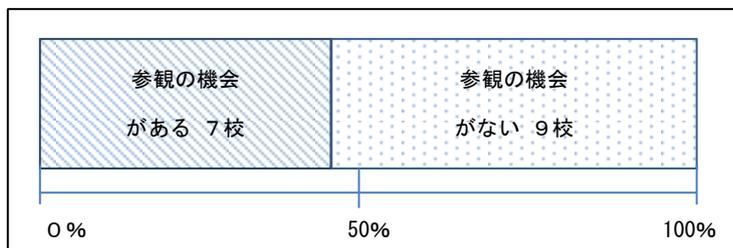


図5 日常的にお互いの授業を参観する機会

なお、研究授業以外に授業参観をすることの成果として、「教師間の共通理解が深まる」、「授業の展開の工夫、教材・教具の工夫、環境設定など新たな発見がある」、「各学部相互の授業参観により、将来像や系統性を意識できている」、「学部間で引継ぎ学年の授業参観を行っており、年度当初からスムーズな支援体制が取れている」などが挙げられた。

(4) 個別の指導計画作成における実態把握から目標設定までの課題

【問】 実態把握の結果から課題の整理、目標の設定に至る過程において、どのような課題がありますか。（自由記述）

この問いに対しては、図6のように、小・中・高等部共に「適切な目標・内容の設定」が多かった。具体的には、「実態に応じた目標・方法の設定」、「具体的な目標・内容の設定」、「検査結果を目標につなげていく考え方や手順」、「生活年齢と発達年齢を考慮した目標設定」などの回答であった。

次いで、「検討の場や方法の工夫等」が多かった。具体的には、「複数教師による課題・目標設定が難しい」や「多角的な分析の不足」、「担任・

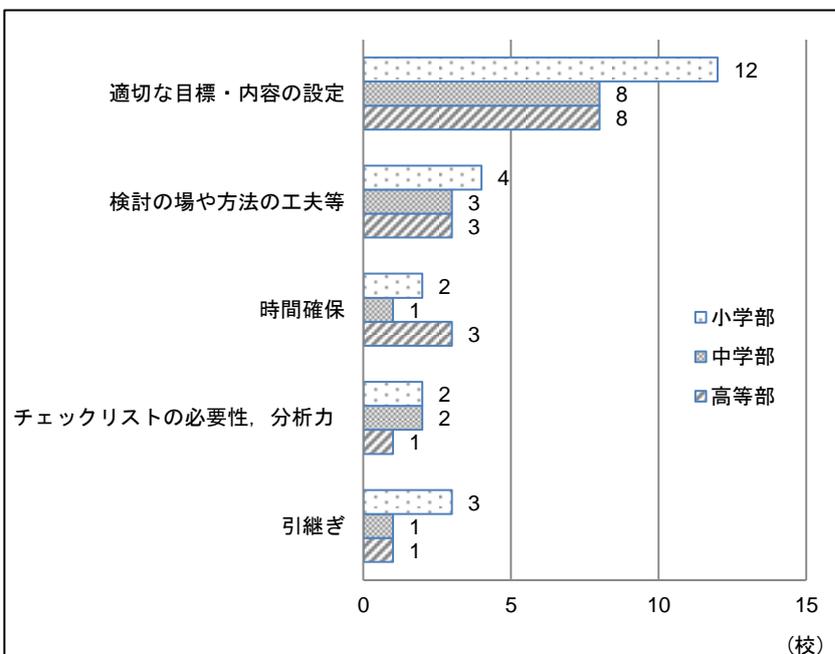


図6 実態把握から目標設定までの課題（記述による複数回答）

教科担当間の共通理解の難しさ」、「ミーティングの時間不足」などが挙げられた。その他、「時間確保」や「チェックリストの必要性、分析力」、「引継ぎ」の項目が続いた。

(5) 個別の指導計画の運用上の課題

【問】 個別の指導計画の運用上の課題は何ですか。(自由記述)

個別の指導計画の運用上の課題は、**図7**のように、「様式・表記等」に関するものが多く挙げられた。具体的には、「様式の統一が必要である」、「文字数の制限があり、児童生徒の状態像を十分記述することが難しい」、「記入資料の増加」などであった。また、「評価の方法」に関することも多く、「評価が困難」や「評価の検討のしにくさ」、「評価の方法、評価規準の設定」などが挙げられた。

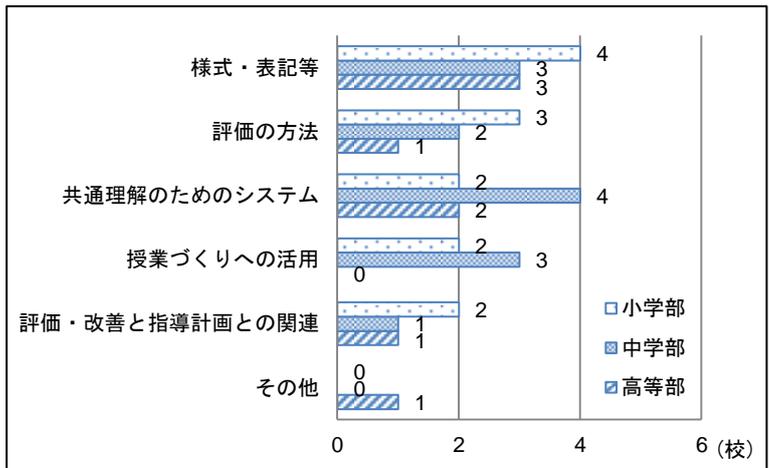


図7 個別の指導計画運用上の課題（記述による複数回答）

その他、「共通理解が難しい」、「共通理解等に関する時間の確保が難しい」、「目標・評価の明文化が必要である」、「引継ぎが難しい」、「複数教師で検討する体制の整備が必要である」など「共通理解のためのシステム」が課題として挙げられた。また、「個別の指導計画と授業づくりをどうつなげていくか」などの「授業づくりへの活用」や「評価・改善と指導計画との関連」など、授業づくりの課題も挙げられた。

(6) 授業づくりにおいて学部で共通理解している指導の工夫と取り組みやすい工夫

【問】 学習活動において、学部で共通理解している指導の工夫は何ですか。また、共通理解していると答えた項目の中で、実際の授業において取り組みやすい工夫は何ですか。(選択肢による複数回答)

小学部の生活単元学習に関するグラフ（**図8**）で、特徴的な点を報告する。

共通理解されている工夫として、興味・関心をもちやすい「教材・教具の準備」、「学習の流れを明確に示す」などを挙げる学校が多かった。興味・関心をもちやすい「教材・教具の準備」については、全ての学校が共通理解している指導の工夫として挙げていた。また、共通理解している指導の工夫と取り組みやすい工夫との結果の比較において、その差が大きいものは、「主体的な活動場面の設定」であった。

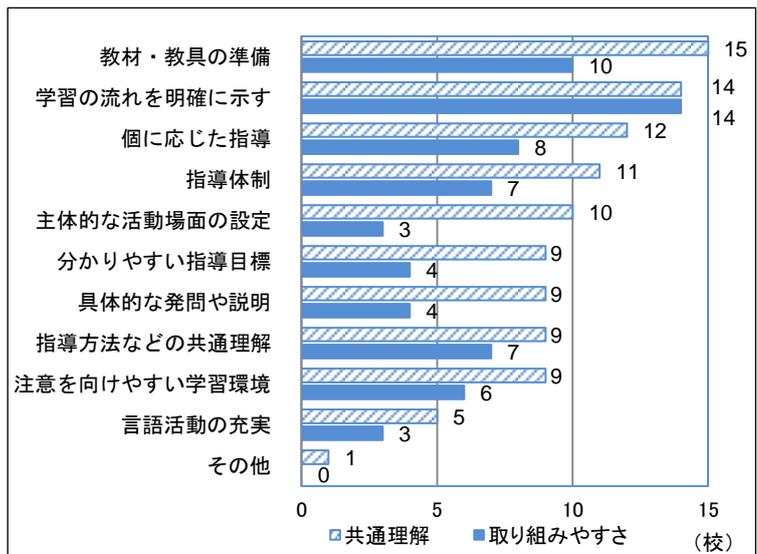


図8 共通理解している指導の工夫と取り組みやすい工夫 <小学部 生活単元学習>（複数回答）

なお、「言語活動の充実」は、共通理解も取り組みやすさも高くはなかった。このような傾向は、他の教科等や学部においても同様に見られた。

(7) 1 単位時間の授業における児童生徒の学習評価の方法

【問】 1 単位時間の授業における学習評価は、どのような方法で行っていますか。

児童生徒の学習評価の方法としては、図9のように、記述式の評価をしている学校が多かった。また、記述式と○△式の両方で実施している学校が、生活単元学習では3校、国語では3校、算数・数学では2校あった。○△式のみ評価をしている学校は少なかった。その他、前述の三つの選択肢以外の回答では、「担当者によって異なる」、「1 単位時間の評価ではなく、単元ごとに記述式で行っている」などが挙げられた。

なお、この調査項目は、小・中学部が15校（小・中学部設置校）、高等部14校（高等部設置校）が回答している。

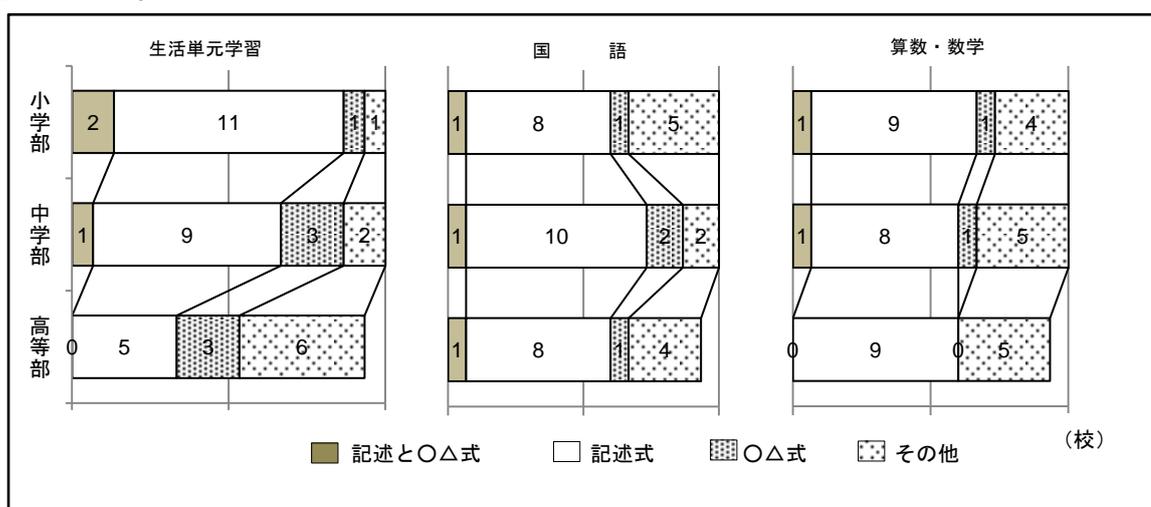


図9 1 単位時間における児童生徒の学習評価の方法

(8) 授業づくりにおける評価の課題

【問】 授業づくりにおける評価の課題について記入してください。

授業づくりの課題において、評価に関する自由記述では、「単元の評価は行うが、毎時間の評価がおろそかになっている」、「評価は各担当者の主観に頼ることが大きく、客観的な評価が難しい」、「評価の観点を明確に設定していないので、曖昧になってしまう」、「教師が同じ視点で、評価できるよう、評価項目の共有化が必要である」、「評価は教科担任のみで終わってしまう場合が多く、担任と共有して次の学習に生かすことができていない」などの課題が挙げられた。

(9) 1 単位時間の授業における教師の指導の評価の実施状況

【問】 1 単位時間の授業において、教師の指導の評価を行う際の課題は何ですか。また、その理由があれば記入してください。（自由記述）

教師の指導の評価は、調査を行った全ての教科等において、小学部が中・高等部よりやや多く実施していた。

教師の指導の評価が難しいと回答した学校の理由としては、「評価の観点が分からない」、「評価の観点が統一されていない」など、評価の方法が明確でないことや、「時間の確保が難しい」など、指導者間において、共通理解するための話し合い場面の設定が難しいなどの課題が挙げられた。

4 調査のまとめ

実態調査の結果を集約し、現状と課題について整理し、表1のようにまとめた。

表1 実態調査の現状と課題について

	現 状	課 題
教育課程の編成及び実施	○ 教育課程編成においては、「小・中・高等部の系統性のある段階的な教育課程の編成」や「小・中・高等部の一貫性・系統性」など、一貫性・系統性に関する課題を挙げる学校が多かった。また、指導内容・指導方法の在り方や障害の種類等に応じた教育課程の編成などが課題として挙げられ、様々な教育的ニーズに応じた教育課程の編成を各学校が模索していることが分かる。	○ 特別支援学校の教育課程編成において、一貫性・系統性のある教育課程の編成を行うための方法や手続きを明確にし、確認していく必要がある。
	○ 教育課程実施においても、「指導内容の精選」や「指導目標や指導内容の明確化」などの指導内容・指導方法の在り方に関する課題が多く挙げられるとともに、教育課程の評価・改善に関する課題も多く挙げられた。	○ 教育課程の評価・改善のシステムを見直し、指導内容・指導方法の在り方などの課題解決につなげるようにする必要がある。
	○ 日常的にお互いの授業を参観する機会は、ほぼ半数の学校で実施されていた。成果として、教師間の共通理解が深まる、児童生徒の将来像や系統性のある指導を意識できるなどが挙げられ、授業参観は、一貫性・系統性のある指導を進めるに当たり、大変重要であると言える。	○ 各学校において、授業参観の視点の共有やビデオ撮影などの工夫を行い、効果的で効率的・日常的な授業参観を更に実施していく必要がある。
個別の指導計画	○ 個別の指導計画作成において、多くの学校で実態把握の結果から、適切な目標の設定について課題があるという回答が挙げられた。このことは、児童生徒の障害の重度・重複化、多様化に伴う実態把握や分析の困難さ、前学年からの引継ぎの不十分さなどが要因として考えられる。	○ 実態を的確に捉えて、課題を整理し、適切な目標や内容を設定していく方法などを明らかにしていく必要がある。
	○ 個別の指導計画の運用においては、児童生徒の状態像を記述できない、評価の方法が不明確、複数の教師で検討する体制の整備が十分でないなどの課題が挙げられた。個別の指導計画を日々の授業の中で活用していく、システムが十分に確立されていないことが考えられる。	○ 個別の指導計画作成・活用のシステムを再検討していく必要がある。
授業づくり	○ 共通理解している指導の工夫として、興味・関心のある教材・教具の準備や学習活動の流れを明確に示すこと、個に応じた指導の工夫などが挙げられた。しかし、共通理解していても、取り組みにくいものとして、「主体的な活動場面の設定」があった。主体的な活動場面の設定については、実態差が大きく活動場面の設定が難しいこと、身に付けてほしい思いが先行し教師主導型になりがちであること、体験的な活動よりも机上での学習が多くなりがちであることなどが考えられる。	○ 主体的な活動を設定するためには、児童生徒一人一人の活動や参加の状況、主体的に活動できている場面とできていない場面の確認など、課題を整理することが必要である。
	○ 共通理解も、取り組みやすさも難しいものとして、「言語活動の充実」が挙げられた。「言語活動の充実」に関する指導内容や指導方法について、共通理解が不十分であることが考えられる。	○ 各教科等の特性を踏まえた言語活動について整理し、言語活動が充実している場面を見直し、特別支援学校における言語活動の充実の在り方について明確にする必要がある。
	○ 児童生徒の学習評価については、記述式の学校が多く、○△式のみでの評価は少なかった。「各担当者の主観に頼ることが大きく、客観的な評価が難しい」、「評価項目の共有化が必要」などの課題が挙げられた。 ○ 教師の指導の評価については、「評価の観点が分からない」などの課題が挙げられた。	○ 評価の方法について基本的な考え方や観点を明確にすることが大切である。特別支援学校においては、個人目標を具体化する際に、評価の方法等を記入するなどの工夫が必要である。 ○ 教師の指導の評価の観点例を作成し、授業参観や授業検討会において活用し、授業改善を行うことが必要である。